【国土交通省】

平成20年度　地方の元気再生事業　事業実施調書

(1)　取組名	多様なNPOの連携による新しいスタイルの滞在プログラムの創出事業		
(2)　実施団体名	別府市元気再生協議会	(3)　対象地域	大分県別府市
(4)　代表団体名	特定非営利活動法人別府八湯トラスト	(5)　推薦団体名	別府市

(6)実施した取組の内容	**取組①**	農村との連携による滞在プログラム作り事業	
	実施主体	特定非営利活動法人　ハットウ・オンパク	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		〇地域資源のアピールによる元気再生戦略 ・都市部シニア層を対象に農村交流体験などを含む滞在（3泊4日程度）型・泊食分離型滞在プログラムの開発と実証の実施。（50組100名の募集を予定）　・宿スタッフを対象に、滞在を支援し地域への消費を促す人材育成も実施。（育成人材10名以上（宿5軒以上）を予定）　・連携する農村における特産品開発と旅館などの販路を開拓。（開発する特産品3品と販売可能な宿5軒以上）	・9-3月　都市部シニア層向け滞在プログラムを2種考案し、市内および県内各地での実証を行う。10月～3月まで、15回実施。 募集実績は35名。3月に追加モニターツアーを実施。 これにより、3月までの参加者は55名を予定。　・9-11月　滞在支援人材育成講座を市内で9・10・11月に3回実施。育成者は10名（6軒の宿）。　・10-2月　特産品開発と評価、販路開拓を実施。3品の開発・評価を終え、宿8軒の販路を確保。　・多彩な地域体験プログラムに加え、宿における支援サービス、農村での体験交流と特産品開発の取組を組み合わせることで複合的な滞在プログラムを実施。事業化を前提とした収支構造をとることで事業化モデルの構築にも取り組んだ。
	取組②	芸術文化を活かした滞在プログラム作り事業	
	実施主体	特定非営利活動法人　BEPPU　PROJECT	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		〇芸術文化のアピールによる元気再生戦略 H21年春の大型のモダンアートフェスティバルの参加者を対象にしたアート鑑賞の為の滞在プログラムを開発し、中心市街地にて実証する。アート鑑賞の為の滞在プログラムの運営を担う人材の育成も実施する。（育成人員10名以上）	・9-11月　滞在プログラム開発の実証事業として11/15・16にコンテンポラリーダンス公演を中心市街地にて開催。旅行者への告知、参加者調査を実施。延べ300名以上が参加。 ・12-1月　アート鑑賞の為の滞在プログラムの運営の担い手人材育成の為の研修会を1月の15日～18日まで、中心市街地で実施。延べ180名が参加。 13名の育成を実施。 ・2月　H21.4月から二か月間開催される大型芸術祭での滞在プログラムを準備。　・現代アートの鑑賞と地域体験を複合させた滞在プログラムの開発は類似の事例も少なく、先進性がある。
	取組③	福祉を活かした滞在プログラム作り事業	
	実施主体	特定非営利活動法人　自立支援センターおおいた	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		〇福祉のまちのアピールによる元気再生戦略 観光地や宿泊施設、飲食店等のバリアフリー調査を手がけてきた実績を背景に、NPO法人に勤務している当時者が主体になり、車椅子のお客様でも安心して別府および周辺を楽しめる4つのモデルコースを開発・調査・実証する手法で、商品化を図る。	・9月　コース開発の為に観光地や宿泊施設、飲食店等の事前調査を実施。　・10－12月　モデルコース開発の為に、10月および11月に2泊3日で2回、東京、大阪から専門家8名を招聘し実証調査を実施し、結果の評価。　・1-2月　協議会の連携体制の下、調査および実証事業をベースに商品化の為の検討会を実施。4つのモデルコースによる商品化が完了する予定。　・個々の施設のバリアフリー観光情報の提供はあったが、これらを組合わせて分かり易いモデルコースとすると同時にユーザーが必要なサービスを選択できる商品化の取組には、複合性・先進性・モデル性がある。
	取組④	新しい滞在プログラムの情報を提供する仕組み作り事業	
	実施主体	特定非営利活動法人　別府八湯トラスト	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		〇地域連携のアピールによる元気再生戦略 各取組を一体的に展開し、事業成果を高める為の情報提供の仕組みを構築。情報の発信を一括して行う、ウェブサイトの構築を行う。　地域内における歴史的ストックなどを活かした情報提供の仕組みを考案し、今後の中心市街地などで行われるリノベーション事業などのハード整備につなげていく。6件以上の情報発信拠点の整備案を完成する。	・12-3月　各取り組みを一体的に展開できるウェブサイトを構築。12月から一部稼働。順次整備を進め3月に本格運用を開始する。　・9-2月　基礎調査とワークショップ（延べ11回）を実施。50個所以上の候補物件から6か所の提案計画が揃う。　・12-1月　協議会構成団体の連携を強化するために地域における人材育成の取り組みを「こうさてん」の名称にて、中心市街地で1月の15日から18日まで実施。延べ500名が参加。　・協議会を構成する各NPOが展開する事業の情報発信をウェブや歴史的ストックという「場」で束ねて発信しようとしている活動に先進性がある。

	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	取組の実施を踏まえた反省点
(7)実施体制	NPO別府八湯トラスト（代表団体：主担当④）＝全体の調整、情報提供体制の構築を担う NPOハットウ・オンパク（主担当①）＝農村との連携による滞在プログラム作り事業 NPOBEPPUプロジェクト（主担当　②）＝芸術文化を活かした滞在プログラム作り事業 NPO自立支援センターおおいた　（主担当　③）＝福祉を活かした滞在プログラム作り事業 別府市・別府商工会議所　　広報・集客の支援、助言の提供	・農村連携では、「柳・隠山地域」の地域づくりグループと連携し事業を実施した。 ・福祉連携では、旅館組合と連携し宿泊施設への協力体制を構築した。 ・アート連携では、中心市街地商店街、地域づくりグループと連携し実証事業を実施した。 ・「こうさてん」においては、2つの商店街、3つの地域団体と連携して開催した。 20年度事業においては、各実施主体間、実施主体と地域内の各団体間とも全般的に連携はスムーズに取れた。21年度以降は、この体制を基盤にしたウェブコミュニティを構築し、適時適切な意見交換の実施などにより更なる連携強化を図りたい。

(8)取組により得られた成果

○成果1→　農村との連携などを取り入れた滞在プログラムの創出。

H19	H20（当初予定していた目標）
H19（現状）＝ほぼ皆無	H20＝50組の参加者による実証を経て滞在プログラムが完成する。

H20（実際に得られた成果）
・都市部シニア層向けに農漁村での体験、農村交流などを交えた滞在プログラムを造成し、販売実証を行った。 結果として、滞在プログラムには35名が参加した。
・調査の為の人数を増やす為にモニターバスツアーを造成し、20名を募集している（3月）。
・宿泊施設における滞在支援人材（コンシェルジュ）10名の育成ができた。（宿の数は6軒） また、滞在支援サービスを支える支援ツールなども整備することができた。
・集客にはとても苦労したが、この実証事業を通じて、次年度以降の滞在プログラムの運用イメージの構築と、運用基盤の整備をすることができた。

○成果2→　連携する農村での特産品開発と旅館などにおける販路の創出。

H19	H20（当初予定していた目標）
H19（現状）＝なし	H20＝3種の特産品開発と旅館等での販売の実証が行われる。

H20（実際に得られた成果）
・別府郊外の「柳・隠山地域」の地域づくりグループと連携し、地域特性に応じての素材を「菊芋」とすること、「菊芋」を素材として3種の特産品開発を行った。
・商店街および旅館にて、アンケート調査と試食評価を実施。 今後の取り組みの課題および事業化計画を整理した。商品化時の夕食メニューへの採用と、8軒の宿での販売協力が決まった。

○成果3→　アートの鑑賞と地域体験を連携させた滞在プログラムの創出。

H19	H20（当初予定していた目標）
H19（現状）＝なし	H20＝滞在プログラムを完成させて平成21年度に販売可能なものにする。

H20（実際に得られた成果）
・アート鑑賞を目的とした滞在プログラムを考案するための実証実験においては、延べ300名以上が参加した。アンケートの結果から県内80%、県外20%であった。
・アート鑑賞に加え、まちの歴史や生活文化を紹介する地元住民ガイドが参加者を誘導することで滞在価値を高める事が確認できた。
・この実証を通じて、H21年4-6月に開催される大型芸術フェスティバル時の滞在プログラムの要件が分かった。
・人材育成講座の取り組みにおいては、延べ180名が参加し、その中で担い手人材としての育成対象者が13名となった。

○成果4→　福祉サービスを活かした新たな滞在プログラムの創出。

H19	H20（当初予定していた目標）
H19（現状）＝なし	H20＝4種のモデルコースを完成し、育成人材・事業化の要件が明確になる。

H20（実際に得られた成果）
・調査を通じて、40個所の観光施設や宿泊施設のバリアフリー対応を整理することができた。
・専門家を招聘した事で観光客に近い視点で客観的な意見を伺う事ができ、4種のモデルコースの完成に繋がった。
・協議会の連携パートナーとの議論を通じて、H21年度以降の課題と事業化要件が明確になった。

○成果5→　新しい滞在プログラムの情報を提供する仕組みを完成させる。

H19	H20（当初予定していた目標）
H19（現状）＝なし	H20＝情報発信をワンストップで担うウェブサイトの完成。 ハード整備に繋がる6件以上の情報発信拠点の整備案の完成。

<table>
<tr><td></td><td colspan="2">H20（実際に得られた成果）
・各団体の成果を集約して滞在者向けに情報の提供を担うウェブサイト「ベップウオーカー」が完成し、本格的な稼働を開始する（3月予定）。
・歴史的ストックを活かす「場」の調査事業では、50件以上の場を抽出し、その中から具体的にハードの整備に繋がりそうな6件の情報発信拠点の整備案がそろった。
・1月の15日から18日まで開催した交流連携型「こうさてん」に主体的にかかわるなど、協議会の連携を中核的に担う存在として積極的に活動した。
・地域における人材育成のありかた、連携の仕方、滞在者への情報提供の在り方などを明確にすることができた。</td></tr>
<tr><td>(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</td><td colspan="2">・NPOオンパクが実施した、都市部シニア層向けの滞在プログラムは媒体や印刷物を使っての集客が非常に苦戦した。大部分の申込は、NPOオンパクの顧客会員組織や取組に参加している旅館からの集客となった。 既存の旅行商品の販売手法では集客数に比して、集客コストがかかり、事業化は難しい事を感じた。 集客方法の見直し（ウェブサイトや会員ネットワークの活用など）、滞在プログラムの運用の見直し（経常コストの削減、受注型プログラムの開発）が今後の取り組みテーマとなる。
・NPO BEPPU PROJECTが実施した実証事業は、宿泊施設での告知に務めたが、結果として、大部分の旅行者は「たまたま通りかかった」人が来たという事に終わった。課題としては、宿泊施設との連携の強化、および滞在中の旅行者へのタイムリーな情報提供の在り方を考案する必要がある。
・NPO自立支援センターおおいたが実施した事業は、おおむね計画通りに進んだが、完成した商品そのものの販売の可能性の評価が今後の課題として残る。
・NPO別府八湯トラストが実施したウェブサイト構築事業は、おおむね計画通り（3月完成予定）だが、今後は、完成したウェブサイトを協議会メンバーをはじめ、多くの団体が情報発信用として実際に活用されるのかが課題として残る。
・NPO別府八湯トラストが実施した歴史的ストックの活用調査事業は、実際にハードの整備にどの程度がつながり、情報発信拠点として機能できるかが課題である。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">(10)平成21年度以降の活動の見込み</td><td>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</td><td>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</td></tr>
<tr><td>「集客交流エージェント」事業の本格展開（H21～）
＝新しいスタイルの滞在プログラムの提供の日常化
・農村との連携による滞在型宿泊商品の販売
・芸術と地域を結びつける滞在プログラムの提供
・車椅子旅行者向けの滞在プログラムのコーディネートおよび
プログラムの運営を支援する人材育成とサービス提供
・H21年春の大型芸術フェスティバル時の滞在プログラムの提供</td><td>1．日常的な滞在プログラム提供事業（H21～）
・実施主体：NPOハットウ・オンパク＋NPO BEPPU PROJECT
・20年度事業の成果と課題を踏まえ、日常的に提供できる滞在プログラムを開発し、提供。
・テーマは,アート、地域交流で事業を目指す。
・地方の元気再生事業の活用を希望（想定金額800万円）

2．バリアフリー旅行のサービス提供に関する事業の実施（H21～）
・実施主体：NPO自立支援センターおおいた
・バリアフリー旅行支援人材の育成講座の実施
・4つの旅行プランの実証と検証
・新規施設のユニバーサルデザイン調査
・旅行代理店、ホテル、旅館組合他企画調整会議
・地方の元気再生事業の活用を希望（想定金額400万円）</td></tr>
<tr><td>情報を提供する「ワンストップ窓口」の運用 （H21～）
＝新しいスタイルの滞在プログラムの情報を一元的に提供。
・滞在プログラムの情報の提供
・滞在者へのサポートサービスの提供
・関連する事業者の育成支援など</td><td>3．滞在者を支援する「まちづかいセンター」の運用（H21～）
・実施主体：NPO別府八湯トラスト
・地域の情報発信や地域連携を促進する為の機能を提供。
・地方の元気再生事業の活用を希望（想定金額800万円）</td></tr>
<tr><td>「関連するハード等」の整備 （H21～）
＝調査研究内容を踏まえ、関連するハード等の整備を進める。
別府市の中心市街地の整備計画の一環として推進
・歴史的ストック・空き店舗リノベーションでの情報提供拠点整備
・地元農産品（菊芋）を用いた特産品開発販売の本格化
・人材・起業家の育成を図るための中間支援拠点の整備</td><td>4．地元農産物（菊芋）を用いた特産品の商品化と販売実証（H21～）
・実施主体：隠柳保存会
・特産品の商品化と販売実証
・地方の元気再生事業の活用を希望（想定金額200万円）、その他加工場整備は別途助成金を検討中。</td></tr>
<tr><td></td><td>当初提案になし</td><td>5．地域の拠点を活用し、人材を育成するためのコミュニティ・ファンドの研究事業（H21～）
・実施主体：NPO法人　別府八湯トラスト
・情報発信拠点の活用と担い手人材の育成を図る為にコミュニティ・ファンドについて調査研究する。
・地方の元気再生事業の活用を希望（想定金額200万円）</td></tr>
</table>

多様なNPOの連携による新しいスタイルの滞在プログラムの創出事業（大分県別府市） ー別府市元気再生協議会・・ー

平成20年度　地方の元気再生事業
事業実施調書　参考資料

◆主な実施取組の内容◆

実施取組内容・結果（NPO法人ハットウ・オンパク）
農村との連携による滞在プログラム作り事業

・都市部シニア層向けに農漁村体験を含む滞在プログラムを考案し、実証を行った結果、約50名が参加した。
・宿泊施設で滞在を支援するコンシェルジュを10名育成。
・地元産品を使った3種の特産品の開発と評価を実施。

上左：ガイドブックと告知媒体
上右：農村の体験プログラム
下右：商店街での特産品評価

実施取組内容・結果（NPO法人BEPPU PROJECT）
芸術文化を活かした滞在プログラム作り事業

・アート鑑賞を目的とした滞在プログラム開発の実証として11月にダンス公演を開催。延べ300名以上が参加。
・担い手人材育成の為の研修会を実施。延べ180名が参加。
・H21に開催される大型芸術祭での滞在プログラムを検討。

上左：商店街でのダンス公演
上右：実証実験のチラシ
下右：人材育成研修会

実施取組内容・結果（NPO法人自立支援センターおおいた）
福祉を活かした滞在プログラム作り事業

・観光施設、交通機関、宿泊施設などのバリアフリー調査を事前に実施。
・専門家を招き、2泊3日の行程で2度のコース評価を実施
・車いすで安心して観光できるモデルコース4種と滞在プログラムが完成

上左：地獄巡りでの実地調査
上右：温泉施設の事前調査
下右：ホテルでの実地調査

実施取組内容・結果（NPO法人別府八湯トラスト）
新しい滞在プログラムの情報を提供する事業

・協議会メンバーが連携して、新しい滞在プログラムの情報を提供するウェブを構築した。3月に本格的に運用開始。
・歴史的ストックの調査と活用を考えるワークショップを11回開催し、50件以上の物件の抽出と6件の物件の活用策を検討した。
・協議会メンバーの連携により、地域での人材育成をテーマにしたイベント「こうさてん」を開催した。

左：協議会で連携して実施した「こうさてん」の模様
中：「こうさてん」イベント
右：歴史的ストックの活用を検討するワークショップの模様

◆取組実施による成果・今後の展開◆

・都市部シニア層向けに農村交流などを交えた滞在プログラムの実証を通じて、運用イメージの構築と運用基盤の整備、滞在支援人材の育成、支援ツールの整備を行うことができた。
・H21年の大型現代芸術祭に向けた滞在プログラムの考案と担い手人材の育成ができた。
・車いすで安心して観光できるモデルコース4種と滞在プログラムを考案できた。
・歴史的ストックを活用した情報発信拠点に関して6件の活用イメージができた。
・「こうさてん」には500名以上が参加し、連携の促進と今後の事業イメージを共有できた。

今後の展開
1. アートと地域をテーマにした、滞在プログラムを日常的に提供する事業。
2. バリアフリー旅行のサービスの提供と人材育成
3. 「まちづかいセンター」の運用による情報発信、滞在者支援、交流の促進
4. 地元農産物（菊芋）を用いた特産品の商品化と販売実証
5. 地域の拠点を活用し、人材育成を図るコミュニティ・ファンドの研究